



▲喜びの中で行われた東北新幹線の出発式(6月)

新幹線元年、高速新時代として幕を開けた昭和57年。大宮―盛岡間の暫定開業とはいえ県民待望の東北新幹線がみちのくを走り、東北自動車道も安代まで開通しました。早池峰国定公園の誕生や広域公園第1号としての県営花巻広域公園のオープンなどの明るいニュースの中、明治以来、本県農

業史上初めてという3年連続の水稲不作や、台風、集中豪雨の影響で県内各地が大きな被害に見舞われるなど、今年も私たちの身の回りは大きく揺れ動きました。

激動のこの一年を振り返り、やがて来る新しい年が私たちにとって素晴らしい年であるように願うものです。

1月 よみがえった北上川——。穏やかな天気恵まれた元日、松尾村の新中和処理施設が試運転を開始しました。旧松尾鉱山から出る鉱毒水を浄化するため、昭和52年からおよそ100億円の巨費を投じて建設を進めていたものです。

本県初の試みで県婦人の船が静岡県清水港から宮古へ向けて出航したのが12日。県内各地から409人の婦人が参加して、婦人の地位向上や老後問題などについて活発に意見が交わされました。そして、14日には昨年に続く第2回県青年の船が県内各地から集まった若人405人を乗せ沖縄県、フィリピン、香港に向け7,600キロ16日間の旅に宮古港から出航しました。

昨年、史上初の日本選手権3連勝の偉業を達成した新日鉄釜石ラグビーチームが大学の覇者明治を

救急医療情報システムが本格始動

2月 1日、救急患者の受け入れ情報を素早くキャッチする県救急医療情報システムが始動しました。これにより急病人の発生などにいち早く対処することが可能になりました。5日、岩谷堂たんすが南部鉄器に次いで、本県では2番目の伝統的工芸品に指定されました。

国鉄赤字ローカル線を国鉄に代わって運営する三陸鉄道株式会社に地方鉄道業免許が認可されたのが15日。17日には建設推進連絡会

破り、4年連続、通算5回目のラグビー日本一の金字塔を樹立したのが成人の日の15日です。

議が発足し、早期開通へと準備が進められ、工事施行認可も18日に運輸省から出されました。

来年3月のジェット化に備え、花巻空港ターミナルビルの起工式が行われたのは27日です。

3月 通信指令や交通管制に威力を発揮する新装置を備えた県警察本部新庁舎が1日に完成しました。東北新幹線が初めて盛岡―大宮間を通し試運転したのが21日です。

県が日本立地センターに委託し

▼多くの県民から歓迎を受けた鈴木総理大臣の郷土入り(9月)



▲史上初のラグビー4年連続日本一を達成し、地元釜石にがい旋した新日鉄釜石チーム(1月)

ていた大規模電源立地可能性調査の結果を26日に発表。適地とされた沿岸市町村の住民からは様々な意見が出され、今後の動向が注目されました。

59年度の開通を目指して、久慈線普代―田老間、盛線釜石―吉浜間の工事再開の起工式が行われたのが27日です。三陸鉄道の完通を祈る地域の人たちにとって、長年の悲願達成の第一歩となりました。

4月 新年度の始まりとともに、60年春のオープンを目指して作業を進める田老大規模年金保養基地建設事務所、エネルギー水資源課から分離、独立した石油備蓄対策室と地熱熱水利用調査事務所がスタートしました。12日から県庁では初めての手話通訳者が成人福祉課に配置され、県庁を訪れる言葉の不自由な人たちと県職員のパイプ役として活躍しています。

発達した低気圧の影響で、15日から16日にかけて県内各地に大雨被害。県は災害対策本部を県庁内

に設置し、被害の把握と災害復旧に向け全力を挙げました。

沼宮内高校女子ホッケーの藤本君子選手が本県初の全日本の代表に選ばれたのもこのころです。

5月 企業誘致を積極的に進める本県にとって通信機器メーカーの大手、松下通信工業株式会社花巻工場の起工式はうれしいニュース。また、新年度第1号で本県の誘致企業2社の立地が岩手町と花泉町に決まりました。

20日、県は3月に公表した大規

模電源立地可能性調査報告書を東北電力に渡し、起業者の立場で本県の大規模電源の立地について具体的な調査、検討を要請しました。

同日、沿岸北部を中心に集中豪雨。土砂崩れで小学生1人が死亡し、河川の決壊や道路も寸断され、被害額は64億7,700万円を越すものとなりました。

新中和処理施設の完工式は24日。東山町の鍾乳洞「幽玄洞」では3億5,000万年前のウミユリ^{ガク}の化石が発見されています。

待望の東北新幹線が盛岡まで開業

6月 ハヤチネウスユキノソウ・ナンブトラノオなどの貴重な高山植物帯を有する自然の宝庫、早池峰国定公園が誕生しました。5日に魚の病院ともいえる県魚病指導総合センター、19日には県栽培漁業センターが相次いで完成。とる漁業から育てる漁業に向けて大きく前進しました。

そして23日、多くの県民の期待を乗せて東北新幹線盛岡―大宮間が開業しました。これで盛岡―上野間は3時間58分で結ばれ、在来線特急に比べ2時間25分も時間が短縮され、首都圏との日帰りが可能になりました。この日、北の拠点となる盛岡市では城下もりおか大祭典など祝賀行事が華やかに行

昭和57年 (1982) 県勢ビッグテン

- 1 東北新幹線開通、田沢湖線の電化開業、三陸鉄道工事再開、高速交通時代の幕開け
- 2 鈴木総理大臣初の郷土入り県民挙げて歓迎
- 3 新日鉄釜石ラグビー史上初の4連覇日本一、国体でボクシング、ラグビー、ホッケー、重量挙げが大活躍、本県スポーツの意気上がる
- 4 自然の宝庫「早池峰国定公園」誕生。新中和処理施設本格稼働、北上川清流化に威力を発揮。環境保全対策さらに充実
- 5 東北自動車道安代まで開通、国道バイパス続々完成、東北横断自動車道秋田線北上・和賀、湯田・横手間の整備計画線昇格、県土横断道ルート発表など幹線道路網の整備進む
- 6 異常低温などで稲作が3年連続冷災害と厳しいなか、滝沢村姥屋敷地区が豊かなむらづくりで天皇杯を受賞、むらぐるみ農業を進める本県農業に大きな励み
- 7 県営初の網取・滝両多目的ダムが完成、治水対策、小水力発電をはじめ水資源の活用が一段と図られる
- 8 沿岸観光の拠点、大規模年金保養基地「グリーンピア田老」が60年春の開業に向け建設着手
- 9 初の婦人の船洋上研修、婦人海外研修ヨーロッパ派遣、連帯の輪広がり社会参加に大きな期待
- 10 栽培漁業センター、魚病指導総合センターが相次いで完成、とる漁業から育てる漁業に大きく前進

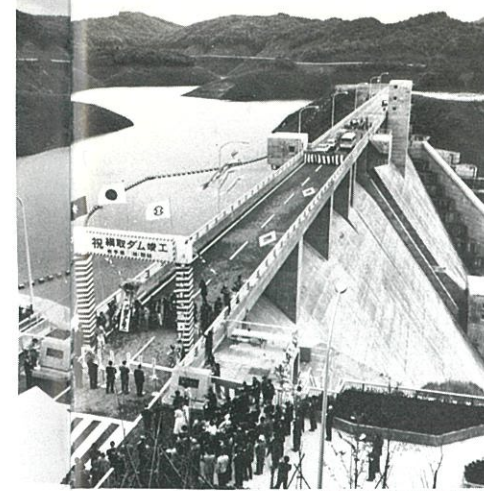
▼三陸鉄道の完通を目指して着々と進められるレールの敷設作業(3月)



▼東北自動車道も安代まで開通し、県土をほぼ縦断(10月)

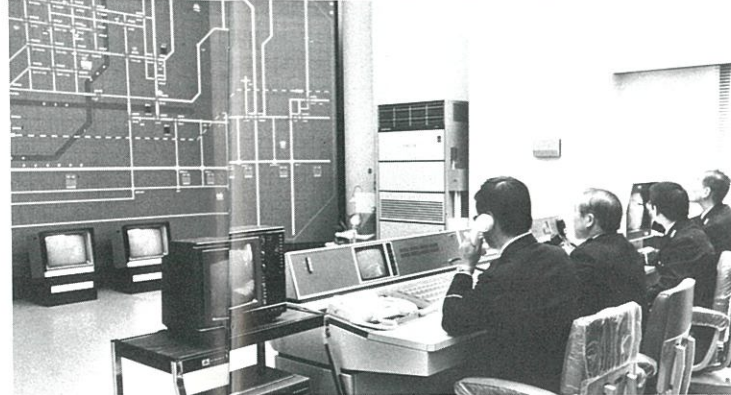


▼稲の障害不稔で現地を視察し、農家の人々を励ます中村知事(10月)



▼水資源を有効に活用するために建設された県営多目的ダム(網取ダム・10月)

▼通信指令や交通管制の整備された県警察本部(交通管制センター・5月)



▼初の洋上研修で大きな成果を上げた、いわての婦人の船(1月)



▼北上川清流化に威力を発揮する新中和処理施設(1月)



われ、県内各地も歓迎ムードで盛り上がりました。

7月 先月、指定されたばかりの早池峰国定公園のトチナイツウをはじめ、岩手山や駒ヶ岳のコマクサなど貴重な高山植物が相次いで盗掘されたのもこのころ。岩手の自然を大切にするため、改めて山の保護の在り方が問われました。

久慈市と東北自動車道九戸インターを結ぶ県北部高規格道路のル

ートが発表されたのは21日。県内では初の県営花巻広域公園が26日、花巻市金矢地区にオープン。親子そろって楽しむことのできる一大レクリエーションの場として喜ばれました。

6月から好天続きで県内の水稲も順調に生育していた矢先、27日から30日にかけて異常低温に見舞われ、2年連続の冷災害を受けている稲作農家に大きな不安が……。

9月 7月下旬の異常低温で奥羽山系沿いや遠野市周辺で稲の障害不稔が出始めたのがこのころです。

4日、鈴木総理大臣が首相就任以来初めてのお国入り。県出身の首相のお国入りは昭和7年の斎藤実首相以来、実に50年ぶりであって県内は歓迎の波に包まれました。

8月末の集中豪雨被害に続き、13日には県土を巻き込んで通過した台風18号の影響で、実りの秋を目前にした農作物や住宅を中心にまた大きな被害。久慈市では去る5月の低気圧被害に続いて2度目の災害救助法の適用を受けました。

県内の水稲は3年連続の不作、東北農政局が15日現在の作況指数を県平均で93の不良と発表したのが27日。28日には県庁農政部内に水稲低温被害地域対策本部を設け被害地域の救済に当たりました。

10月 島根県で行われていたくびき国体が8日閉幕。最終日の県勢はボクシングで成年、少年とも昨年に続く完全制覇を達成し、ま

たホッケーでも少年女子と男子がアベック優勝するなど健闘して天皇杯16位を獲得しました。

鈴木首相が突然の辞意を表明したのが12日。約1カ月前にお国入りしたばかりで再選が期待されていただけに県民の驚きは大きいものでした。

19日東北自動車道青森線西根一安代間が開通し、待ちに待った県北高速交通時代到来。立ち遅れている県北地域の開発に大きな弾みとなりました。対話の県政を進めて各市町村で開催してきた県政懇談会が23日の盛岡市で全市町村を一

巡。これまで数多くの意見や提言が県政に反映されています。県営第1号の多目的ダムとして網取ダムが本格稼働したのは25日です。

今月15日現在の県内水稲の平均作況指数が89と発表されたのが28日。9月15日現在の作況より4割低下し、「著しい不良」となりました。明治以来の本県農業史上初めての3年連続の不作です。こうした中、滝沢村の姥屋敷地区が「豊かなむらづくり全国コンクール」で天皇杯受賞という明るいニュースが入り、厳しい本県農業にとって大きな励ましとなりました。

れています。

久慈市長内川の治水対策として建設されていた滝ダムが完成したのは10日です。このダムには最大出力450キロワットと小規模ながらも県営では御所発電所に次ぐ6番目の発電所。水資源の有効利用と地域の振興にとって大いに威力を発揮するものと注目されます。

41年に開通した国鉄田沢湖線が15日から電化開業。盛岡一秋田間に初めて特急電車が走りました。

12月 花巻空港の拡張整備は、滑走路、エプロン(駐機場)などの工事も順調に進み、最後の追い込みに入っています。飛行場施設の完成に伴い、飛行場、航空保安施設等の完成検査を年内に終了。来年3月1日のジェット機就航が待たれています。

* * *

新幹線の開業や3年連続の冷災害など揺れ動いた今年もあとわずか。そして迎える58年に夢を託してこの一年を振り返りました。

りんどう乙女の開発、総理郷土入り

8月 県園芸試験場で鉢植え用のリンドウの新しい品種「いわて乙女」を開発。長野県に次ぐリンドウの産地として期待が寄せられています。

県の行政事業運営改善調査委託を受けた財団法人地方自治協会の「岩手県における行政改革のあり方に関する調査研究委員会」の一行が来県、16日から3日間の日程で現地調査が行われました。

59年度の全国植樹祭の開催地が本県に決定したのは27日。松尾村の県民の森を会場に行われることになり、全国植樹祭が開催されてちょうど10年目に当たります。

県内は30日、本県上空に居座った雷雲の影響で、各地で集中豪雨に見舞われました。東北本線も不通になるほど。道路、河川の土木施設や農業関係を中心に総額63億7,150万円にも上る大きな被害。

田老大规模年金保養基地の建設着手

11月 高速交通の波及効果をあまなく県内に広げるため、昭和55年度から行われている県単高速交通関連道路整備事業で国道107号の口内バイパスが6日開通。高速関連道としては初めての完成です。

県が年金福祉事業団から委託を

受けて建設計画を進めていた田老大规模年金保養基地の起工式が9日行われました。沿岸では初の屋外スケート場をはじめ、ホテル、多目的グラウンドなどが配置され、保養や観光・レクリエーションの場として60年春のオープンが待た